

👉をクリックすると関連するページが開きます。

平成 29 年度札幌市幼児教育講演会

「子どもの健やかな成長を願って」

～子どもの発達に応じた保護者の関わり方について～



平成 29 年 6 月 21 日、ちえりあホールにて開催されました。

👉[詳細はこちらをクリック](#)

講師 北海道教育大学教職大学院

教授 小野寺 基史 氏



■夏季休業中の研修講座■

「教科教育研修コース(特別コース)」開催!

8月16日午後、教科教育研修コース(特別コース)「小学校家庭科教育」と「中学校美術科教育」を実施しました。

国立教育政策研究所の教育課程調査官である筒井恭子氏からは、新学習指導要領の実施に向けた家庭科教育ポイントとして、「小学校2年間と中学校3年間で合わせた5年間の系統性を意識した授業づくり」の大切さについてお話をいただきました。

また、同研究所の教育課程調査官である東良雅人氏からは、「新しい学習指導要領とこれからの学び」と題し、美術科教育において、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かな関わる資質・能力を育てることが大切であるとのお話をいただきました。

参加した皆様は、熱心にお話を伺いながら、本市における今後のそれぞれの教科の方向性等について考える貴重な機会となりました。

札幌市小・中学校等学校運営研修会

7月31日、8月30日の2日間、各校において教務・研修に関する業務を推進している先生を対象に実施しました。

第1日は、岐阜大学大学院の田村知子准教授を講師としてお迎えし、「カリキュラムマネジメント」に関する講義・演習等を行いました。第2日は、校種別に分かれ「教育課程の編成と実施」、「学校評価を活かした学校改善」をテーマに講義・協議を行いました。



教員長期社会体験研修

「株式会社コンサドーレ」で実施している1年間の研修も、今月で前半を終えます。今回は、6月と7月の研修報告を掲載します。

👉[「研修報告」はこちらをクリック](#)

教育センター講演会／平成 29 年 7 月 31 日

感じている子どもの理解

～医学的見地から考える

支援の在り方～

お茶の水女子大学

名誉教授

榎原 洋一 氏



対人関係や学習等に困りを感じている子どもたちが、自信をもって生活できるための支援の在り方について、服薬を要するケースでは「子どもたちのQOL(生活の質)をより良いものにするため」との考えに基づいた対応が望まれることや、教室で見られる問題行動への対応マニュアルに関する情報など、示唆に富んだお話をいただきました。

＜参加された方々の感想＞

- ・自分が今まで出会った児童の姿を思い浮かべながら聴講しました。行動のみを見て叱責してしまうことが多く、それが自尊感情の低下や非行につながる可能性があるとの認識をもって関わる必要を感じました。(小学校教諭)
- ・第四の発達障害との表現に誤解が生じる可能性があるというメッセージを明快な語りでまとめてくださり、心に残りました。(中学校教諭)
- ・発達障害の子をもつ親として、知識を深めることができました。子どもの行動の背景を確認できたことで、今後も向き合っていけると感じました。(市民の方)